

日時：令和5年7月6日 訓練 14:00 地震発生～15:10

場所：城西大学キャンパス

テーマ：発災直後の行動ゲーム。大学の授業として実施

大学側：飯塚智規先生（現代政策学部）、学生 70 名（2 班に分け訓練）

だるま：片山（リーダー）、高松、山田美、田中喜、田中晃（記録）

資料：J-DAG とは、指示書一覧表、対応記録票、住民リスト、資機材配備表

資機材カード（見本）、自治会地図、自治会地図（被害情報記入）会場地図

（災害の想定）

発生日時：2023 年 7 月 9 日（日）14 時 00 分

震源：埼玉県北部 震源の深さ：30 km 坂戸の震度：7

地震規模：M8 気温：30 度 湿度 56%

天候：晴れ時々曇り、夕方より大気が不安定になる見込み

直後の状況：停電や断水が発生している模様、電話・携帯は不通

インターネットは接続しにくい状態

坂戸市被害想定：全壊棟数 1000 棟、焼失棟数 100 棟、死者数 40 人、避難者数 4,000 人

1. 訓練の概要

(1) 訓練：災害直後の 1 時間に適切な判断と行動を実戦的に体験するゲーム

- ・ 14 時、地震発生時にアラームと映像で注意、全学生は机の下に避難。
- ・ 14 時 15 分から 1 時間、項目ごとに連合本部から各班に「指示書」が届けられた。
（配布は飯塚先生、片山さん）
- ・ 本部各班は被害状況の把握と対応、安否確認の結果をまとめた。
避難所避難と運営、各人の安否状況（黄色旗の在り—安全、なしで判定）
家屋倒壊と生き埋めと救出、安否確認、火災の発生と延焼、消火対応
道路陥没、橋の亀裂、落雷大雨対応、コロナ陽性者対応、熱中症対応、
- ・ 使用機材は 1 度利用で再利用せず、機材の運搬は「本部から各班」と決めていた。

(2) 班編成：2 班で実施 各班に本部 2 避難所・4 地区（各地区 7 名編成）

- ・ 班内はトランシーバー 1 CH を利用、片山さんからは担当に使い方の説明。
- ・ 各班には「避難所担当」と安否確認する「民生委員」を配置している。
- ・ 班内交流はできるが、班間交流はできない。
- ・ 防災塾・だるま参加者は、助言は行わない、学生からの問い合わせには対応した。

(3) 各班はゲーム終了までに対応記録表をまとめ、翌週に反省会（発表）を行う。

2. 各グループの活動状況

- ・ 立ったり、記録を書き、男女の区別なく落ち着いてまとめていた。
- ・ 柔軟性を持ち専門的な生徒もいた。3 か月前から班編成・準備されたと聞きました。
- ・ 訓練では橋の破損、道路の亀裂で、避難民の行動や受け入れ等意見交換していた。
- ・ 地図への落とし込み、分かり易くカラーで補強、写真で記録確認等工夫が見られた。

3. 我々への問い合わせ・解明等行ったこと

- ・トランシーバーとデジタル無線の長所欠点の説明。
- ・本部への問い合わせはトランシーバーを利用する。
- ・もっと検討の時間が欲しい。(1時間の処理がゲームの特徴)

4. 訓練において防災塾・だるま委員からの感想

①(片山リーダーから) 私は、J-DAGそのものについては、災害発生時に地域に居る者が情報伝達を駆使して連携し、資機材をうまく活用して被害をより良く減少させる考え方と行動を体験しながら学ぶものと考えています。

エキスパートの活動もあるに越したことはありませんが、災害時にその人が居るとは限らないのでその時に居る人達で最善の行動ができるように近づける体験ゲームです。

城西大学では、事前の授業でその狙いは十分に勉強していると思いますが、7月6日のJ-DAG体験では減災目的だけでなく、70人の生徒一人ひとりの評価もあると思うので、実際の災害ではありえないルールがありました。例えば

- ・資機材の使いまわしは出来ない。
- ・資機材は連合本部からは届けられるが、地域本部からは取りにいけない。
- ・民生委員や避難所担当業務は他の人はしない。 などです。

実際には責任者不在もあり、その時居る人たちで出来る事は何でもやるべきだと思いますが、授業なので、それらは講義で教えJ-DAGは大学ルールで仕方ないかなと思いました。

②事前授業を受けた上のゲーム実施で、学生は落ちた感じで取り組んでいました。先生の戦略だと思いますが、指示書の量が多く大変な災害の被害の実態を、学生は感情的には捉えていない(機械的に行っている)様子が気になりました。

③J-DAGは色々なやり方があるので進展の可能性を感じますが、指示書の内容や量、メンバーが情報共有して決める必要があるとおもいました。

指示書配布で精一杯で授業内容は理解できなかった、全体を統括する手順はこれでよかったのか。

④震度7という巨大地震の想定で、実際には大混乱が起きるはずだが、授業の評価のためか、機材の取り扱い、安否確認等で簡素な取り扱いにしていました。

⑤学生とじっくり話し合い、現実の共有をしたかった。

⑥本部の役割がいまいちで、被害状況と対応が一目で分かる工夫等ができればさらに良かったのではないかと。

⑦今回は、区役所関係者や地域の方々の見学がありませんでしたが、城西大学で毎年J-DAGを行って頂ける事はJ-DAGの知名度と普及になるので有難いことだと思います。

(防災全般への意見交換で出た話題)

①防災と福祉が絡む要支援者対応等事は、福祉の講師がおり、分担が難しい。講師が辞めると元に戻る心配がある。学生も福祉には関心がない。

②タイムラインにはPDCAがまだ普及されていない。システムの有料利用もある。

③ゲームを利用するにしても、ノウハウ所有者の了解を得る制約があり、自然相手の活動としてはこのままで良い状態ではない。

③ 自助の比率については100%、70%、3分割等いろいろな意見が出ました。

以 上